

ゴミを燃やしたあとの灰も リサイクルできるってホント？

リサイクルの仕事

環境を守る仕事

ゴミを資源に変える仕事



新日本電工
株式会社

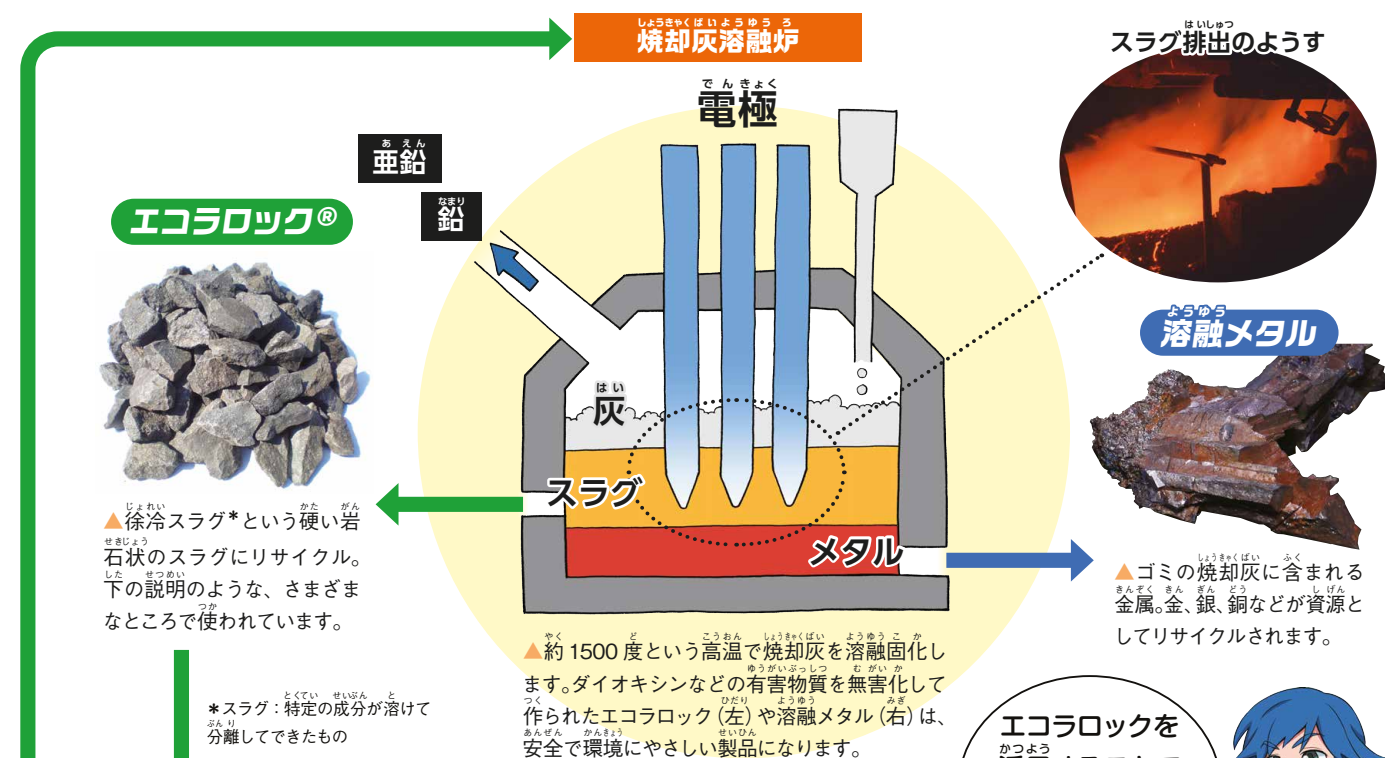
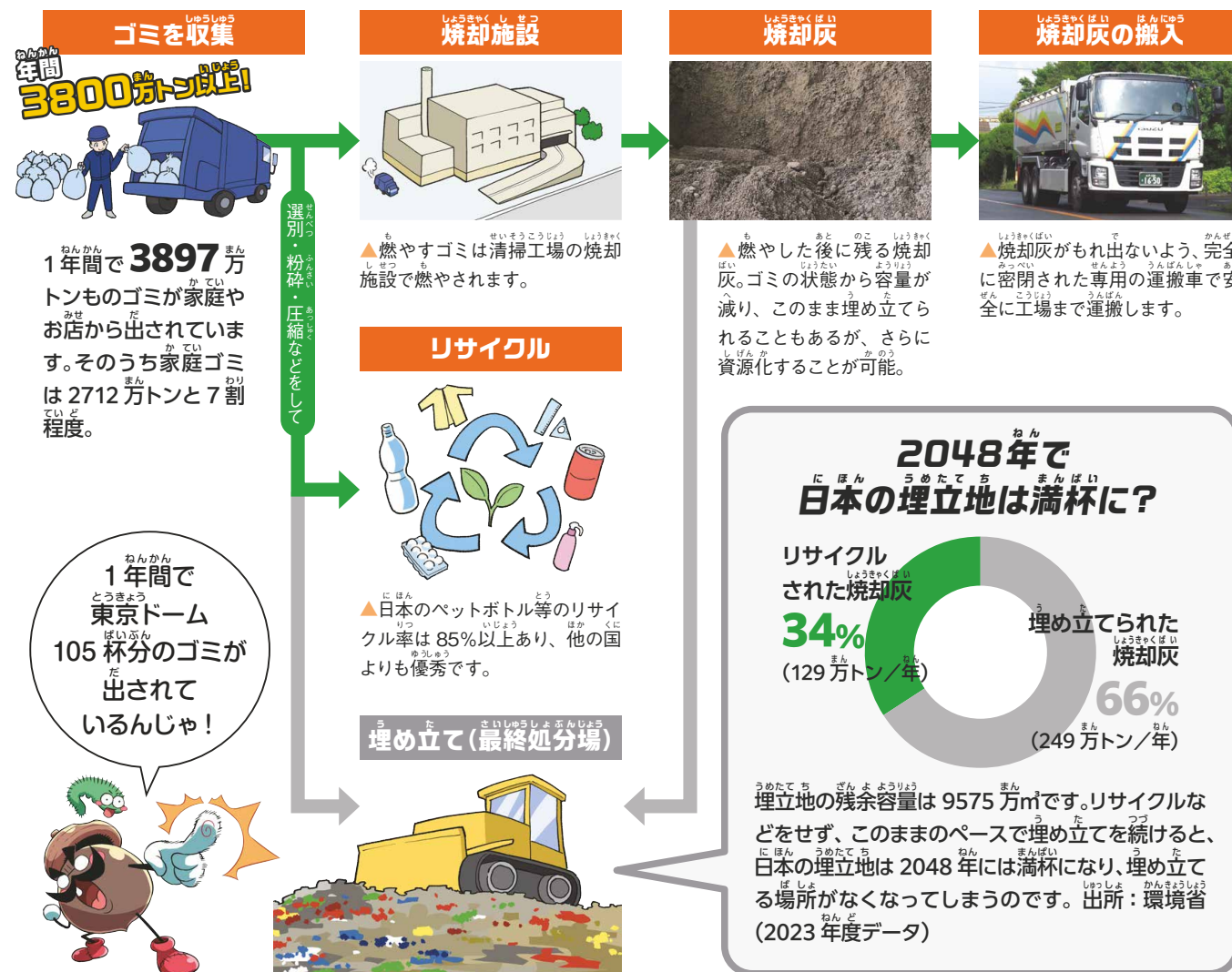
<https://www.nippondenko.co.jp/>

ビンやカン、ペットボトルがリサイクルされていることは知っている人も多いでしょうが、実はゴミを焼却したあとの灰もリサイクルされています。どのように再生し、何に使われているのか、新日本電工に聞きました。

A ホント。焼却灰を石にして道路の材料にしたり、貴金属を回収して資源としてリサイクルしたりしているよ。

家庭のゴミがどうリサイクルされるのか流れを追ってみよう！

家庭から収集されたゴミは、焼却施設、リサイクル施設、最終処分場に分類されて運ばれます。さらに焼却して出た灰は、最終処分場に運ばれるだけでなく、灰溶融炉をはじめとした専門の施設で資源化されます。



**エコラック®は
いろんなところで使われているよ！**

道路の材料に！

ソーラーパネルの下に敷く資材に！

焼却灰から作られたエコラックは頑丈なので、さまざまな場所で活躍しています。主に土木資材として道路や公園などで使われています。高い防草効果があるので除草作業の負担軽減にも役立ちます。

ケーソン*の中詰め材に！



毎日新しい発見があり、やりがいのある仕事です

答えてくれた人 新日本電工株式会社 藤城一輝さん

家庭ゴミの焼却後の灰をリサイクルする仕事についてわかったでしょうか。家庭のゴミが私たちの溶融固化技術で、皆さんの生活を陰ながら支える重要な材料になっています。私の仕事は、環境を守りながら限りある資源を無駄にしないよう心がけ、工場がスムーズに動くように運転計画を立てることです。各焼却施設から出た焼却灰を性状ごとに分け、うまく配合し、品質の良いリサイクル品(エコラック、溶融メタル)にしています。新日本電工は焼却灰のリサイクルのほか、汚れた水をきれいにする装置や、生活に欠かせない鉄のもとになる「合金鉄」という材料を作っています。くらしのどこかにある新日本電工の材料について、興味を持ってもらえたらと思います。



*ケーソンとは、防波堤や岸壁をつくる際に使われるコンクリートや鋼でできた大型の箱のこと